

理事に就任して

株式会社復建技術コンサルタント

今村 隆広



はじめに

令和2年度より、遠藤敏雄の後任として東北地質調査業協会の理事に就任しました株式会社復建技術コンサルタントの今村です。

平成23年に発生した東日本大震災も10年目を経過し復興事業の終焉と言われていますが、人手不足や工事費高騰による工事の不調が頻発し、実際には未整備区域がまだまだ多く残っており、建設コンサルタントとしての地質調査技術者が参画しなければならない状況にあります。今後も復興加速化に向け最適な事業展開を実現するため、我々ジオドクターの役割は重要と感じています。そのためにも協会を通じて努力していきたいと思っていますので何卒よろしくお願いします。

1. 自己紹介

出生地：秋田県秋田市

年齢：1961年生59才

1) 小学時代

夏野球、冬バスケットボールと二刀流みたいにして年中スポーツをしておりました。自分にとって最盛期かも知れないと思えるほどです。対外試合での移動はみんなで自転車・バス・電車を使うのが普通で、今のような車での送り迎えは考えられませんでした。また、試合で神戸に行った時のことになりますが、宿泊先の旅館でうるさくしていたのは悪かったのですが関西弁での注意は田舎者の私には脅威だったことも忘れられない思い出です。

2) 中学～高校時代

この頃はバスケットボールに、ただ、当時県内の能代工業高校の黄金時代で、あまりの力の差に優勝を目指すというよりも、もはや同好会感覚でした。勉強の方は、地質と地理の科目が好きでしたが、今思うと古典と化学がまるでダメで消去

法の好きだったかもしれません。

3) 大学時代

進学先を東京か地元かで迷いましたが、外へ出る勇気なく、地元の大学へ。土木学部に入り担当教授の専門から土質分野に目覚めたのもこの頃です。

4) 就職

誰もが思う大学で専攻した土質分野を生かした仕事をしたいと考え、就職先として大手地質調査会社に応募。しかし、あえなく不合格。面接の時、転勤に対する後ろ向きの発言をしたのが理由かと自己弁解、とは言うものの会社が求めているスキルやモチベーションが無かった結果だと思っています。

その後、就職担当の教授に相談し「会社に入っても自分の好きなことができるとは限らない。どんな職種でも自分を生かす道はある。」の言葉で心機一転、施工会社へ就職。これが社会人の始まりです。

教授からのこの一言が仕事に対する考え方の基礎になったと思っています。自分に言い聞かせるように「好きなこと、得意なことを仕事にできれば最高だけどそれは稀。本意と違って自分もどう適性させていくかの方が大切。」

そこでは7年勤めましたが、地質調査関係の仕事に少し未練があり、チャレンジのつもりで建設コンサルタント会社に応募し念願の地質調査部門へ転職しました。その頃はバブル景気で、偶然会社が30才前後の若い技術者を募っていたことで入社する運びに、今に思えば全くもってラッキーとしか言いようがありません。

その後、地質調査グループへ配属、土質に関する知識を生かして、軟弱地盤解析や防災関係を主として従事することになりました。この分野でも、施工会社での経験は無関係でなく役立っていることもあらためて実感するようになりました。

今の会社で勤続28年を迎え、現在、技

術部門の統括本部長として、主に技術・人材等の調整役をしています。

2. 地質調査業の将来について考えること

ICT、AI、IoTといった技術革新を背景に、測量・地質調査・設計・施工間の垣根は低くなっている状況を考えれば、今の部分委託で対応するのではなく、計画段階から調査・設計・施工管理・維持管理に至る全過程において発注者のパートナーとなり技術の支援・代行ができる責任と役割が求められる時代になっていくと考えられます。また、調整会議等そのような機会が多くなってきました。

したがって、地質調査業はその専門性を高めるだけでなく、設計・施工管理分野についても関与し、手戻りのない効率的な設計・施工または維持管理に参画できる技術者へと成長していくことが必要だと考えています。

3. 理事として携わりたいこと

宮城県との意見交換会でも要望事項の中で挙げておりましたが、特に、私は以下の2点を重要課題としています。

①担い手の育成

地質調査業における「担い手」とは、ボーリングオペレータと分析・評価する若手技術者の2つを指しています。

特に、ボーリングオペレータについては、事業量減少が最大の要因ではあるものの3Kのイメージによる就業者の敬遠が拍車をかけている状況にあります。いくら可視化技術が発達しても、ボーリングコアにより実際採取した土・岩の観察は省くことはできません。地質調査・解析技術者を増しただけでは肝心の現場試料が無ければ技術者本来の力を発揮することができない場合が多くなります。そのような状況に陥らないためにも、ボーリングオペレータを育成し一定数を確保する必要がありますが、さすがに一個人一会社で難しく、協会がリードしていくべきで、私自身もこれに携わっていきたいと考えています。

②地質調査の重要性を進言

施工時におけるトラブルは、地質調査不足が原因となるケースが多く大幅な工期変更や工事費増大が強いられることがあります。また、完成後の変状や周辺地盤への影響となれば新聞沙汰になったり

して社会問題に発展することも少なくなく、「地質リスク分野」が注目されています。ただし、地質に係る危険性や不測の挙動を予測することは容易ではなく、その専門性や経験が必要で、地質調査結果を踏まえて専門技術者が計画・設計段階から入ることで多くの課題を抽出できることが可能と考えています。これは、対象物の品質確保の観点からも貢献できるものです。そのためにも協会として、今以上に技術力向上のための支援や初期段階から参画できるような仕組みの導入に向け、発注者側に働きかけが必要と考えております。

4. その他～もう一人家族

自宅で飼っているワンちゃん（メス、1年8ヶ月）を紹介します。

ペットでも色々な種類がありますが、その中で大勢を占める犬派・猫派があり、うちは少し押され気味に



なった犬派で、かれこれ30年近く犬有り生活です。写真は4代目のチワワです。正統派の顔形なのかは分かりませんが、性格は非常に大人しく誰にでも懐くので家族は溺愛しています。ちなみに、下の座布団は、今流行りの模様で実家のばあさんに作ってもらったものです。ただ、見てのとおりは無関心。

おわりに

以上、とりとめのないお話になってしまったことをお詫びします。

今後、地質調査業が事業を進める上で不可欠な分野であることはまちがいありませんが、担い手・品質確保の観点から、まだまだ解決していかなければならない問題があることは確かです。

今回仲間に入れてもらった協会活動を通じて、魅力ある地質調査業にしていかななくてはならないし、また、地質調査技術者があらゆる場面で事業に参画することが有益であることを知ってもらうための活動をしていきたいと思っています。

ご指導・ご鞭撻のほど宜しくお願い致します。